

# パーキンソン病患者家族の介護負担感に影響する要因

早稲田大学教育・総合科学学術院教育心理学教室

堀 正士

## 1. 目的

パーキンソン病（以下PDと記す）の患者・介護者に対する心理教育が介護負担感に与える影響について、先行報告はいずれも高齢者、認知症の患者を対象としたもので、PDに関する報告は見当たらなかった。そこで、本研究では、PD患者・介護配偶者の病状に関する知識の理解度が、介護負担感および抑うつ度に与える影響を明らかにすることを目的とした。

## 2. 方法

首都圏のPD友の会会員833組の患者・介護配偶者に対して、病状に関する知識の理解度、抑うつ度や介護負担感の調査をした。さらに病状に関する知識の理解度と抑うつ度や介護負担感との関係についてパス解析を行った。

## 3. 結果

35通の回答が回収された（回収率40.2%）。患者が男性、女性いずれの場合も、患者の薬の名前に関する知識が高い場合、介護配偶者の介護負担感が低かった。また介護配偶者の薬の効果に関する知識が高い場合、介護配偶者の抑うつ度が低かった。さらに介護配偶者の抑うつ度が高いと介護負担感が高かった。また、患者の重症度が高いと、介護負担感が高かった。患者の性別を考慮した場合、夫が患者の場合において患者の抑うつ度が高いと介護配偶者である妻の抑うつ度や介護負担感が高かった。また、夫が患者の場合、重症度が高くても介護配偶者である妻の抑うつ度に影響がなかったが、妻が患者の場合、患者の重症度が高いと患者も介護配偶者も抑うつ度が高かった。

## 4. 考察

### (1)男女共通の要因

病状の理解度のうち、患者による薬の名前に関する知識が高いと、介護負担感が低いという結果が得られた。薬の名前に関する知識を持つことによって、患者が、医療者、同病者、介護配偶者とのコミュニケーションが良好になると考えられるが、このことが介護配偶者の介護負担感を軽減する一因となったと考えられた。

また、介護配偶者による病状の理解度が介護負担感を減らすという結論は得られなかったが、介護配偶者における薬の効果に関する知識が高いと、介護配偶者の抑うつ度が低いという新しい知見を得た。この理由として、薬の効果に関する知識が高いと患者の症状と薬剤の効果の関係を適切に把握できることにつながり、介護上の余計な不安を取り除くことができるためと推測された。

また、介護配偶者の抑うつ度が高いと介護負担感が高いことが分かった。この理由として、抑うつ度が高くなったことにより、介護配偶者の介護に対する意欲が低下し、その結果、介護負担感が高くなると考えられる。さらに、患者の重症度が高いと、予想通り介護負担感が高かったが、このことは、Carter ら<sup>1)</sup>や Shrag ら<sup>2)</sup>による PD 患者の介護者に関する先行研究結果を追認したことになった。

### (2)性差のある要因

妻が患者の場合、患者における患者自身の症状に関する知識や介護配偶者である夫におけるウェアリング・オフ（以下 WO と記す）に関する知識が高いと女性患者の抑うつ度が低いことが分かった。夫が患者の場合この関係はみられなかった。PD の薬物治療中に見られる WO 現象は、長期の L-ドパ製剤の服薬により症状の日内変動が出現する現象であり、この状況においては、患者は薬が切れるのを自覚する<sup>3)</sup>。介護者が WO の知識があれば、患者は服薬時期などの助言を得ることにより症状を安定させることができるため、結果として抑うつ度が下がるものと推測された。た

だし、これらの知識の抑うつ度への影響について性差が認められた理由は不明である。

Reid<sup>3)</sup>は、患者が PD と診断された初期段階に、患者が症状を理解することや患者同士が情報を交換することにより、疾患の経過に対する見通しを立て苦悩を低減することができるかと述べている。本研究では、長期療養している患者・介護配偶者を対象としているが、妻が患者の場合、彼女自身の症状に関する知識が高い場合および介護配偶者の WO に関する知識が高い場合は、患者の抑うつ度が低いという結果となっている。本研究は横断的研究であり、推察に過ぎないが、女性患者の場合、診断を受けた後も引き続き病状の理解を深め続けることにより患者自身の抑うつ度が低減する可能性が考えられた。Starkstein ら<sup>5)</sup>によると PD の重症度が高くなるにつれてうつ症状が直線的に高くなるわけではなく、とくに病初期は発現頻度が高く、その後は発現頻度がいったん下がると報告している。この理由として、彼らは PD のうつ症状は病気の時期によって異なる背景を持っていると推測している。すると、病初期のうつ症状の原因は病気の告知に伴う反応性のうつ症状の出現であると理解でき、その後、病気を受容過程においてうつ症状がいったん軽快すると考えることができる。本研究の結果で PD の抑うつ度が低減したのはこのような背景によるものと推察される。

夫が患者の場合、患者の抑うつ度が高いと、介護配偶者である妻の抑うつ度や介護負担感が高いことが分かった。逆に、妻が患者の場合、患者の抑うつ度は介護配偶者である夫に影響していなかった。日本の社会において介護は家族に任されており、中でも妻に対しては周囲の期待や圧力が強いことがこういった性差に影響しているのではないかと考えられる。

妻が患者の場合、重症度が高いと患者の抑うつ度と介護配偶者の抑うつ度が高いことが分かった。逆に、夫が患者の場合、重症度と抑うつ度との関係は見られなかった。このことは、女性患者の場合、とくに重症度が高くなった時に、患者・介護配偶者双方の抑うつ度が高くなる恐れがあることを示しているため、医療者はこのことを念頭において治療することが重要である。

研究の限界としては、以下の点があげられる。本研究は、横断的研究であるため因果関係を結論づけるには注意を要する。また、対象者を首都圏の会員に限定しているため、利便性の高さが他の地域と異なる可能性が高く、PD 患者・介護配偶者全体の傾向と異なる可能性が残されている。

今後の課題として、患者・介護配偶者に実際に病状理解のための心理教育を行う介入することで、今回の結果のような介護負担感や抑うつ度に変化が認められるかどうかといった、prospective な研究を重ねていくことが重要であると考えられた。

## 5. 参考文献

- 1) Carter, J. H., Stewart, B. J., Lyons, K. S., et al.: Do Motor and Nonmotor Symptoms in PD patients Predict Caregiver Strain and Depression? *Mov Disord* 23: 1211-1216, 2008
- 2) 水野美邦, 近藤智善編集: よくわかるパーキンソン病のすべて 改訂第2版, 永井書店, 大阪, 2011
- 3) Reid, J.: Diagnosis of Parkinson's disease: why patient education matters. *Prof Nurse* 19: 33-35, 2003
- 4) Schrag, A., Horvis, A., Morley, D., et al.: Caregiver-burden in Parkinson's disease is closely associated with Psychiatric symptoms, falls and disability. *Parkinsonism Relat Disord* 12: 35-41, 2006
- 5) Starkstein SE, Preziosi TJ, Bolduc PL, et al.: Depression in Parkinsons Disease. *J Nerv Ment Dis* 178: 27-31, 1990